建築設計、90有余年

山形商工会議所議員
伊藤　剛氏

少々面映ゆい気もするが、弊社の生い立ちを紹介することで、牽いては地域における建築の歴史を知っていただければと思う。弊社は1924（大正13）年に私の祖父伊藤高蔵と、母方の祖父秦（じん）鷲夫が共同で開設した。東北では最も古く全国でも10指に入る。西川町出身の祖父と、上山藩重臣の家に生まれた秦は共に文部省に出仕。大正７年に旧制山形高等学校（現・山形大学）の建設に当たり現場監理を命ぜられた。完成後、秦の義弟で日本の耐震建築構造学の創始者である東大教授佐野利器（さの・としかた、白鷹町出身）の薦めによる。

叔父で代表取締役会長であった伊藤健によれば、２人は佐野の薦めとともに、米沢出身で明治神宮、筑地本願寺を設計し建築界最初の文化勲章受章者伊藤忠太、上杉伯爵邸を設計した中條精一郎に大いなる刺激を受けて、未踏の地に足を踏み出したという。地方における建築監理設計事務所開設は大冒険であった。

２人の代表的作品は、事務所開設２年後の山形市立第一小学校の建築設計監理。当時の山形県においては最先端の鉄筋コンクリート造りの学校施設で、昭和初期の山形市の年間歳出55万円に対して総工費約36万円という大事業であった。1927（昭和２）年には、金融恐慌打開のため催された山形市主催の全国産業博覧会のメーン会場となり、その記録写真に竣工したばかりの偉容を見ることができる。

その第一小学校の再生プロジェクトが築70年後に動き出し、弊社は旧校舎の耐震診断、耐震補強設計とともに新校舎の設計を行った。新校舎は旧校舎とのバランスを考慮し、直線的な力強さを表現するため同じ階数、階高とし、新旧一体的な建物となるよう1910年代から30年代にフランスを中心に流行した直線的なアール・デコ装飾様式を取り入れ、落ち着いた外観装飾をとした。一方、耐震補強工事が施された旧校舎は国登録有形文化財に指定され、現在は山形まなび館と名称を変えて中心市街地の賑わいづくりの拠点として、新しい時代の役割を果たしている。初代が当時の最先端の知識、技術を学び手掛けた建物を、約70年の時を経て再生する仕事に携わることができたことに、あらためて喜びを覚える。

私共は学校建築等を中心に公共工事を数多く手掛けてきた。昨年10月、創立90周年を記念し作品集を発刊し最近の主な作品を紹介している。学校建築では東根市立大森小、県立酒田光陵高校、山形県立保健医療大学。また、山形県ＪＡビル、山形市医師会館・休日夜間診療所、ヘルスケアセンターまむろ川など設計コンセプトを含めて掲載している。現在はＬ字型の現敷地に新築される県立山形工業高校の設計監理業者に選定され、2016年度使用開始に全力を挙げている。

以前、書物で「自分の設計した建物は自分の子どもみたいなもの…」という言葉に接した。何らかの使命を持って生まれた子ども（建物）は永く元気で、その使命を果たしてほしい。そのためには多様な設計条件をクリアしながら施工者の意を汲み、地域の景観形成としてのあるべき姿、設計者としての考えをいかに調和させるか。計画段階で率直に意見を述べ合うことが大切ではないかと思う。エレクトロニクスの氾濫ともいえる高度な情報社会、自然科学の目まぐるしい発達の中、人間が人間らしく生きる器である建物は、皆に愛されて、快適さや落ち着き、やすらぎを与える。「けが」や「病気」に陥らない健康な建築を目指していきたいものです。

（株式会社秦・伊藤設計代表取締役）